

2020年12月1日

中部運輸局 御中

愛知障害フォーラム（ADF）
代表 加賀時男
（愛知県身体障害者福祉団体連合会会長）
愛知県重度障害者団体連絡協議会
会長 長谷由香
名古屋市昭和区恵方町2-15
TEL 052-851-5240
FAX 052-851-5241
（担当：入谷・辻）

視覚障害者ホーム転落死亡事故におけるホームドア設置緊急要望

（回答）

日頃より、交通行政に、ご尽力頂きありがとうございます。

さて、2020年11月29日午後0時45分頃、東京メトロ東西線東陽町駅にて、視覚障害者の方がホームから転落、死亡するという、大変痛ましい事故が発生しました。繰り返えられる同様の事故に対し、深い悲しみと憤りを感じます。ホームドア等の安全設備が設置、稼働していれば、この事故は防げたはずで、このような安全設備は、視覚障害者だけでなく、高齢者の方やベビーカーを使用する方、子供などにとっても最も有効な方法です。中部運輸局管内における鉄道事業者に対し、早急にホームドアなどの安全設備を設置するよう、周知指導を行って下さい。また、下記の点についても、強く要望致します。

記

1. すべての駅ホームにおいて危険箇所の実態を調査し、危険箇所（ホームに柱等の障害物があり通路幅が狭くなっている等）に対し、早急に安全対策を講じて下さい。また、駅ホームのみならず鉄道駅全体の安全が確保できる対策もあわせて講じて下さい。

（回答）

駅やホームの危険箇所の実態把握については、業務監査や保安監査、年末年始の安全総点検等の機会を捉えて安全確認を行っています。その際に危険と認められる箇所があればその都度指摘し、指導・助言を行い改善を求めていることとしています。

また、駅やホーム等の施設への安全確保のみならず駅係員による積極的なお声かけがなされるよう指導を行って参ります。

2. 駅の乗降客数だけでなく、福祉施設、病院等の交通弱者の利用が多い駅においても、優先的にホームドアを設置して下さい。
5. 特急電車の通過駅では、大変危険を感じます。このような駅にも、ホームドアを設置して下さい。

（回答）

国土交通省では、整備目標や優先順位を定めた上で、ホームドアの整備を推進しております。令和2年度までに全国約800駅に整備するとの現行の交通政策基本計画の目標に対して、令和元年度末時点で858駅に整備されており、1年前倒しで目標は達成されました。

来年度以降の新たな整備目標につきましては、先月20日に公表いたしましたとおり、利用者数のみならず、転落・接触事故の発生状況、駅やホームの構造・利用実態、駅周辺エリアの状況などを勘案し、優先度が高いホームでの整備を加速化することを目指し、令和7年度末までに鉄道駅全体のうち3千番線、1日当たりの利用者数が10万人以上の駅のうち800番線の整備を目指します。

※「バリアフリー法に基づく基本方針における次期目標について（最終とりまとめ）」

国土交通省としては、新たな整備目標の達成に向けて、ホームドアの更なる整備を着実に進めてまいります。

- ホームドアが設置されていない駅については、駅員や警備員を配置して下さい。またホームドアを設置しているのにまだ稼働していない駅での事故が多発しており、視覚障害者は白杖がホームドアに当たると、稼働していると勘違いすることがあり、設置したら一日も早く稼働させてください。

(回答)

鉄道利用者の安全の確保は非常に重要な課題と認識しております。係員の配置については、鉄道事業者において適切に判断すべきものではありませんが、特にホームドアが設置されていない鉄道駅については、障がい者の利用実態を把握の上、障がい者の方に安全で御不便なく鉄道を御利用いただけるよう鉄道事業者に対し指導を行ってまいります。

さらに、鉄道事業者だけでなく、鉄道利用者においても、声かけ・見守りにご協力いただくことが重要であり、国土交通省としても、鉄道事業者と連携して、鉄道利用者による声かけ・見守りについての広報啓発を推進してまいります。

- すべての駅ホームに、音声誘導チャイム設置や内方線付き点状ブロックを敷設して下さい。

(回答)

ホームへの内方線付き点状ブロック設置については、平成30年3月の移動等円滑化基準の改正により、駅の新設や大規模改良を行う際には、ホームドア又は内方線付き点状ブロック等の設置を新たに義務付けており、また、既存の駅についても、基準に適合させるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないとされております。今後、必要な整備が推進されるよう、引き続き鉄道事業者に対して指導及び支援を行って参ります。

また、ホームにおける視覚障害者への音声・音響案内について、「バリアフリー整備ガイドライン」において、ホーム上にある出口へ通ずる階段位置を知らせるため、階段部に音響案内装置を設置することが標準的な整備内容として記載されており、併せて必要な整備が図られるよう鉄道事業者に対して指導及び支援を行って参ります。

- 各駅舎・ホームにてアナウンスにおいて、他の線のアナウンスや、発車ベルなどの音に混ざってしまい、気付きにくいことがあります。また、他の乗客の方に対して、障害者への配慮を促す掲示ならびにアナウンスを適宜行ってください。

(回答)

駅における安全性確保にあたっては、ハード面の施設整備だけでなく、声かけ・見守りなどソフト面の取組を進めることも重要です。毎年、鉄道事業者により「声かけキャンペーン」が行われており、国土交通省としても鉄道事業者と連携して、鉄道利

用者による声かけ・見守りについての広報啓発を推進しています。

また、視覚障害者がホームから転落する痛ましい事故が続いていることから、整備に時間や費用を要するホームドアによらない安全対策を検討するため、視覚障害者団体・支援団体や学識経験者の方々などを委員とする「新技術等を活用した駅ホームにおける視覚障害者の安全対策検討会」が10月9日に設置されています。検討会では、ITやセンシング技術等を積極的に活用し、駅係員のみならず鉄道利用者による協力も視野に入れて、視覚障害者の方々に駅ホームを安全に利用いただくための対策について検討していると承知しています。

障害者団体の方も参加いただいております。本日いただいたご意見は本省とも共有し、対策に活かされればよいと思っております。

以上